



国際ロータリー第 2790 地区 第 4 グループ

## 市原ロータリークラブ会報

第 2642 回例会 2018 年 12 月 5 日 (水) SAA/ 楢原会員 会報担当 / 岡本会員

事務局 袖ヶ浦市椎の森 385 - 21 株式会社リプラス内 例会場 懐石料理 淡粋

- 点 鐘 山本直前会長 (長田会長欠席のため)
- ソング 君が代 奉仕の理想 4つのテスト
- お客様 柏西 RC 石井様、  
市原市体育協会 副理事長 常澄様  
事務局長 斉藤様  
桜さんさん会 代表 河内様、監査役 木本様

●会長挨拶

### ◆◆◆◆◆委員会報告◆◆◆◆◆

・長期計画委員会 本郷会員

## 本日のメインプログラム

### 年次総会



篠田会長エレクトにより次年度の理事役員 (案) が上程され、満場一致で承認された。

### 新入会員卓話

卓話者 深山会員、木下会員



### ◆◆◆◆◆ニコニコ・ソーリー◆◆◆◆◆

市原市体育協会様

篠田会員

山本直前会長

箕輪幹事

野口会員

■誕生祝 齊田会員、山内会員、岡本会員

■結婚祝 高澤会員、今井会員、磯貝会員、檜垣会員

■出席報告 前々回確 68.25% 本日出席28名

欠席26名 本日出席率56%

■点 鐘 山本直前会長

2018年12月5日（水） ロータリー 新入会卓話

みなさま、こんにちは。

只今ご紹介頂きました、朝山ボート株式会社の代表取締役の木下恭子でございます。

この度はこのような伝統のある市原ロータリークラブに入会させて頂き誠に有難うございます。

私の紹介者につきましては、日頃からお世話になっている長田会長のご紹介にて入会させて頂きました。まずこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回の卓話については、月並みですが自己紹介や経歴、現職に至るまでの経緯や会社紹介などお話しさせて頂きま

す。

改めまして氏名は、木下恭子。旧姓は荒井でございます。

生年月日は昭和53年（1978年）4月19日40歳

ここ近年の趣味は、美味しいものを食べることに、3年前に始めたゴルフ。下手なんですけどはまっています。

家族構成ですが、とても優しくかつ私のことをうまく諭してくれる3つ年上の夫と

70うん歳でジャーマンシェパード2ひきを散歩するパワフルな母、

いまだに小学生同士のようなけんかをする、でもとても頼りになる2つ年上の兄がおります。

夫とは5年前に出会い、37歳から木下の姓を名乗っております。

夫の仕事ですが、一緒には働いておらず東京都杉並区で青果店を営んでおります。

これも偶然な話、お互いが三代目同士でしかも仕事を継ぐと決めたあとに出会ってしまいまして、

どうしたものかと考えた末、お互いやれるとこまでやり続けようと結論となり、それぞれ責任を果たす事を決めて一緒になりました。現実生活のところはプチ単身赴任みたいなもので、平日はほぼそれぞれの拠点におりますので、一緒に過ごす週末はより仲良く関係が保てるという新しい夫婦の形になっております。

先に私どもの結婚に話がそれましたが、私の経歴をお話させて頂きます。

本籍、今津朝山で荒井克夫・絹代の長女として生まれ、姉崎の地で幼稚園、小学校卒業し、中・高は木更津にある私立の学校行きました。高校卒業後、大学進学を機に東京で念願の1人暮らしをさせてもらいました。ただ親元での甘えた生活から、東京での1人暮らしというのは想像以上の変化があり、まずそこで親のありがたさを心底感じる事ができました。ですが、つらくとも実家に帰るという選択肢はなく、持ち前の負けん気の強さで、もっと楽しもうという気持ちが先行し、一生懸命、仕事に、遊びにと、とっても楽しい20代を過ごすことができました！

大学では経済を専攻しましたが、友人が立ち上げたファッションブランドいわゆる衣料品小売の会社に入社し渋谷区千駄ヶ谷で勤務しました。皆さんご存知の方いるかわかりませんが、今から20年前くらいに、東急系列の渋谷109というファッションビルのカリスマ店員が流行った時代で、可愛く着飾った女の子たちが販売すればなんでも売れるアパレルバブル時代の真っ只中で仕事を始めました。その当時渋谷109の店舗で、正月の初売りの売上が1店舗だけで一日1,000万円達成するような時代でした。それは少し異常な時代でしたが、姉崎に帰るまで約12年間、コスト・納期管理をする生産管理兼 商品を買付けするバイヤーという裏方の仕事をし、最終的な業務規模は年間売上50億円分の仕入を任せられ、海外・国内問わず出張させてもらい、ちょっと手前味噌ですが優秀社員賞で表彰されたりと、いろいろな経験をさせて頂きました。今の時代はすぐブラック企業と言われると思いますが、上司から「商品が足りないから仕入れしにすぐに韓国行ってきて！」なんていう無茶ぶりにも即対応せねばならずで、でも

自分でもお店の為に行かなければと思いながら仕事に前向きに取り組んでいたなあと思います。あの頃は本当に寝る間も惜しんで良く働き、そして、良く遊んでいました！

良い経験も苦い経験も、良い仲間もでき、今の私の根底を作りあげた時間になったと思います。

ずっと独身で 30 代半ばにさしかかり、世の中の動向を追い続けるファッション業界にもちょっと疲れ果てた頃、偶然母と二人で旅行に行くことになり、そこで両親の会社の事で相談を受けました。いつまでも元気だと思っていた両親がとても年老いていると気がついた瞬間で、それまで全く姉崎に帰るという選択肢はなかった中、問題に直面している両親の姿を見て、私に何かできることがあるならここに帰ろうと帰る決意をしました。

姉崎に戻り父と一緒に仕事を始めましたが、あまり多くを語らない人でしたので、それまでとは 180 度違う業界で知らないことばかりの中、手探りで会社の経営状況・環境など情報収集し、自分なりに仕事に取り組んでいるさなか、父の体調が悪くなりあっという間に亡くなってしまい、残念ながら想定外に早く社長の立場になった次第です。父が亡くなって 2 年半ほど経ちますが、普通の OL から、数年の下積みでの社長への転身は本当に大変でした。いくら前職の業界が大変だったといえども、社長とは責任の重さと違うし、社員の人生がいきなりこの肩に乗ってきたというのは、当時はなかなかの重圧で押しつぶされそうになったこともありました。でもやるって決意したのは自分だし、「女性だから」を悪い方向のいいわけにもしたくなく、いろんなことにぶつかりながらなんとか事業継承もでき、今は社員の皆さんと一緒に細々とではありますが、こんな私が社長として経営している次第でございます。

私の話が長くなりましたが、朝山ボートの歴史についても少しお話させて頂きたいと思います。

祖父である荒井太郎が初代表でございます。市原市が誕生した昭和 38 年（1963 年）に、食品小売の朝山商事を設立致しました。聞いた話によるとこのあたりは田んぼしかなく何もなかった土地に、今も弊社がお世話になっている出光興産などの京葉コンビナート企業が進出しはじめ、祖父は地元民としてそれまで漁業農業しかなかったこの土地に、新しい産業を受け入れそして共存していくために、非力ではございますが地元で人力を尽くしたと聞いております。その後、朝山ボートを昭和 45 年（1970 年）に設立し、父である 2 代目の荒井克夫、そして私が 3 代目として、この姉崎の地に根付いて経営を続けている次第であります。その中で残念ではございますが、朝山商事が運営していた朝山ストアについては、長年ご愛顧頂きましたが、昨年度に私の代で縮小するという決断をし、会社としてはまた新たな道を模索している最中でございます。

現在メインで取り組んでいる朝山ボートの事業内容ですが、綱取・曳船業としておりますが、分類としては海上運輸業になるかと思えます。臨海企業には各工場に海上輸送の為の私設港があり毎日海外国内問わず危険物を搭載した大型タンカー船が入出港しております。しかし海上運輸というのは波や風の天候の影響を大きく受けやすく、時には危険が伴います。より安全で安定的な海上運輸を目指し、工場とタンカー船の間で、弊社が綱取・押曳船作業を承っております。

「綱取り作業」や「押曳船作業（いわゆるタグボート）」というもの自体あまり世に知られてない仕事で、たぶん想像しにくいとは思いますが、簡単にざっくり申し上げると、海上輸送において、安全にタンカー船が離着岸する為に船と桟橋をつなぐロープを取ったり、タンカー船を弊社ボートで押曳し、航行補助をし安全に入就航させる仕事です。海上輸送の円の下力持ちといった具合でございます。よければ弊社 [hp \(asayamaboat.com\)](http://asayamaboat.com) をご覧頂ければ幸いです。

朝山ボートにつきましては、お陰様で来年夏には 50 期を迎えます。幼少時は、恥ずかしながら親の仕事は良く理解しておらず、子供の時、父はお酒のんで釣りしかしてないイメージでした。母はスーパーで毎日汗水垂らして働い

ていたので、母が家計を支えていると思っていた年頃もありました。でも自社の役割・使命を理解し、実際自分が社長をしてみて、「会社を継続させること」の大変さを今になって実感しております。

人としても社長としてもまだまだ成長しなければいけないと思う日々であります。まだまだ成長過程の未熟な社長でございますので、ここでロータリーの考えを学び、自分のすべき行動指針の参考にさせていただきます。そして非力ではございますが、姉崎に貢献できる会社になれば幸いです。

来年には平成も終わり新しい年号になり、目まぐるしい社会情勢の変化の中、この時代を乗り越えるのは容易なことではないと思いますが、持ち前の楽天主気質を生かして、小舟ではございますが、諦めずに時代の荒波を航海していきたいと思っております。

いろいろお話が長くなりましたが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻のお願い申し上げます、結びとさせていただきます。ご静聴まことに有難うございました。

## 市原RC新人卓話 提出原稿

皆様こんにちは。今年の9月から入会させて頂きました、  
(有)みやま生花 の深山友和と申します。この度は新入会員卓話  
という事に感謝申し上げます。人前で話すことは不慣れなもので  
お聞き苦しい点が多々あるとは思いますがご了承していただければ  
幸いです。

### 入会の経緯

入会の経緯は以前から各種ボランティア団体等の方々からお誘いを  
受けてきたのですが、自分も現場で働く中で時間の確保が難しく、ず  
っとお断りをしてきました。ここ数年は地元、姉崎小学校の第34代  
PTA会長として現在も活動させて頂いております。このPTA会  
長の立場が私の中でボランティア活動というものに近づけてくれた  
と思っております。今年度で任期も終了しタイミングといたしますか  
公私にわたり御世話になっております長田会長の就任の年に熱心な、  
お誘いを受けまして決心いたしました。私はまだ経営者として代を  
引き継いでおりません、家族も市原RCという格式ある団体に入会  
する身分ではないのでは、と心配もされております。しかし大先輩が  
たの御指導、ご鞭撻に応え自分自身を高めたいと思っております。

## 自己紹介・家族構成・生き立ち

昭和 49 年 12 月 11 日生まれの 43 歳です。

市原市姉崎生まれで、小学校は明神小に 3 年生まで通い、その後袖ヶ浦市長浦に引っ越したのですが中学・高校・専門学校を経て姉崎の店舗の 2F に舞い戻ってきました。現在は姉崎西地区に自宅を構え妻と 3 人の子供(長女・次女・長男)と暮らしております。

高校を卒業後に千葉市の(有)千葉生花市場で働きながら夜間に日本フロリスト養成学校で 2 年間の生花業の基礎と仕入れの目利き・流通を学び、そののちに千葉市の(株)サニーオフィスで千葉県全域の葬儀用装飾の修業を 2 年間させて頂き、1995 年・平成 7 年に(有)みやま生花に入社いたしました。当時バブル景気崩壊後で弊社の取引先にも様々な変化がありました。自分自身はバブル景気を中学・高校生時代に肌で感じ、そのバブルの終焉も目の当たりにした事が今も大変貴重な経験になった事は言うまでもありません。

そしてバブル崩壊後に実家の経営する会社に戻ってきたのですが、売上は当然ダウンしました、しかし両親の堅実な経営のおかげで 2000 年に姉崎の富士見町から姉崎西に新店舗兼住居を構え現在に至ります。

## 弊社の紹介

弊社は 1974 年 昭和 49 年に姉崎の郵便局通りの貸店舗で私の父親であります、深山 博が創業いたしました。市原市の安須という地区の農家の次男坊で色々な職を転々としておりましたが私の出生と同時に知人の紹介を経て生花店という商売を始めたと聞いております。のちに聞いた話では、自己資金も少なく銀行からの融資も受けられない状況で「桶と水さえあればできるぞ！」と知人に唆されたのが、この商売を始めるきっかけだったようです。店先から食卓と台所が見えるような住宅兼店舗でスタートしました。私の記憶があるのは、3 歳位からでしたが、毎日閑古鳥が鳴いておりました。何も無しの、よそ者の店には中々お客様も来店してはくれません。長らくそのような感じで父親も悩みながら経営していたと思います。

1980 年代に入り千葉市の葬儀社の協力会社の生花店の社長さんから、その葬儀社が市原市に支店を開設するので協力会社として仕事を請けてみないかと打診をいただき、父親は二つ返事で始める事となりました。時はバブル景気前で、今まで暇を持て余していた父親がサンダル履きからネクタイを締めて働き始め子供心に何かが変化していると少しずつ感じたものです。

当時、生花店といえば御祝い事がメインの売り上げの店舗が殆どでした。ようは私の父親は周りの生花店が御祝行事で手が回らず未開拓の葬儀用生花業と店頭での小売りとを合わせて経営していこうと舵を切っていきました。人は「先見の明があった！」などと持て囃しますが、当時は弊社には強みも無く、誰も手を出さない葬祭業の下請け会社として、生活する為に必死で働いた結果が今日の経営基盤になっていると思います。程なくして市原市のほとんどの葬儀社様の協力会社としてバブル景気の波と共に個人商店から法人に変更し現在に至ります。バブル崩壊後には取引先も減少し、売り上げも落ち大変な時期もありましたが、時代の変化や生活の多様性に対応し試行錯誤を繰り返し、お客様・取引業者様に寄り添った経営を持続していきたいと思っております。

## 最後に

本日は貴重な時間を私の拙い言葉で会社紹介させて頂きました。

このような人間ではございますが、市原RCの理念や会の活動を勉強し、先輩会員の皆様との交流や出会いを大切に活動していきたいと思っております。長田会長、会員の皆様、事務局の皆様これからも御指導御鞭撻を切にお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。